

CASBEE® 名古屋

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築環境総合性能評価システム2016 使用評価ソフト: CASBEE_Nagoya_2016(v3.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)名駅4丁目新築計画	階数	地上10F、地下1F
建設地	愛知県名古屋市中村区名駅4丁目1102番2、1103番、1104番	構造	S造
用途地域	商業地域、防火地域	平均居住人員	300人
地域区分	6地域	年間使用時間	4,380時間/年(想定値)
建物用途	集会所、工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2021年11月 予定	評価の実施日	2020年7月20日
敷地面積	2,068㎡	作成者	
建築面積	1,838㎡	確認日	2020年7月22日
延床面積	14,393㎡	確認者	



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

= BEE0.7 ★★★★★

★: S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

☆☆☆ 100%超:☆☆☆ 100%:☆☆☆☆ 80%:☆☆☆☆☆ 60%:☆☆☆☆☆

標準計算

①参照値	0	46	92
②建築物の取組み	0	46	92
③上記+②以外の	0	46	92
④上記+	0	46	92

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質 **Qのスコア= 2.4**

Q1 室内環境

Q1のスコア= 2.7

音環境	1.8
温熱環境	2.3
光・視環境	3.0
空気質環境	3.5

Q2 サービス性能

Q2のスコア= 2.6

機能性	2.1
耐用性	3.1
対応性	2.7

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア= 2.1

生物環境	2.0
まちなみ	2.0
地域性・地域環境	2.5

LR 環境負荷低減性 **LRのスコア= 2.9**

LR1 エネルギー

LR1のスコア= 2.9

建物外皮の	5.0
自然エネ	3.0
設備システ	2.0
効率的	3.0

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア= 2.9

水資源	3.4
非再生材料の	2.8
汚染物質	3.0

LR3 敷地外環境

LR3のスコア= 2.8

地球温暖化	3.0
地域環境	2.9
周辺環境	2.7

3 設計上の配慮事項		
総合	LED照明など的高効率機器を積極的に採用することで、省エネルギー性に優れ、環境負荷を低く抑えられる建築物となるようにした	その他 特になし
Q1 室内環境	F☆☆☆☆の建材を採用し、室内環境が快適に保たれるように配慮した。	Q3 室外環境(敷地内) 屋上緑化の実施。
Q2 サービス性能	仕上材及び配管部材には耐久性の高いものを採用することで、性能が長期間保たれるように配慮した。	
LR1 エネルギー	BPIm=0.79	LR3 敷地外環境 適切な量の駐車場を設置して交通負荷抑制に努めた。
LR2 資源・マテリアル	節水型機器を積極的に採用し環境保護に努めている。	

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修・解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

重点項目スコア・結果シート

(仮称)名駅4丁目新築計画

■使用評価マニュアル:

CASBEE-建築(新築)2016年版、名古屋市建築物環境配慮制度運用マニュアル

■評価ソフト:

CASBEE_Nagoya_2016(v3.0)

重点項目		評価	全体に対する重み係数	重点項目スコア
1. 温暖化対策				2.8
LR1	エネルギー	2.9	0.4	
LR3.1	地球温暖化への配慮	3.0	0.1	
LR3.2.2	温熱環境悪化の改善	2.0	0.05	
2. 自然共生				2.3
Q3.1	生物環境の保全と創出	2.0	0.109703643	
Q3.3.1	地域性への配慮、快適性の向上	無	0.010970364	
Q3.2	まちなみ・景観への配慮			
Q3.3.2	敷地内温熱環境の向上	3.0	0.054851821	
3. 循環型社会				2.9
LR2.1	水資源保護	3.4	0.06	
LR2.2	非再生性資源の使用量削減	2.8	0.18	
LR3.2.3	地域インフラへの負荷抑制 ※2	2.7	0.01875	

結果

1. 温暖化対策

評価点 = 2.8



2. 自然共生

評価点 = 2.3



3. 循環型社会

評価点 = 2.9



重点項目のスコアは以下のように算出している。

$$\text{重点項目スコア} = \frac{(\text{評価点} \times \text{全体に対する重み}) \text{の総和}}{\text{全体に対する重みの総和}}$$

※1 ここでは、Q3. 3. 1の評価する取組みのうち評価項目 1 2) 地域性のある材料の使用 又は、Q3. 2において評価する取組みのうち評価項目 4) 地域性のある素材による良好な景観形成 のいずれかでポイントがある場合は「有」、ない場合は「無」を評価とした。重点項目スコアの算出における評価点は評価「有」の場合は5、「無」の場合は1とし、重みはQ3. 3. 1の全体に対する重みに0. 2を乗じたものとしている。

※2 ここでは、LR3. 2. 3のうち、LR3. 2. 3. 3 交通負荷抑制 を除いたもので評価点及び全体に対する重み係数を算出している。したがって、ここでの評価点はスコアシートにおけるLR3. 2. 3の評価点とは異なるものである。